

① 記事では、被災者支援情報が地域の高齢者に行き渡らない理由を推し量っています。内容を答えましょう。

高齢者はスマートフォンなどで情報を得るのは苦手。

② 掲示板には、地域へのどんな願いが込められているでしょうか。記事中の言葉を使って説明してみましょう。

離れている被災者が帰れるきっかけや、みんなが集う場をつくりたい

③ 高齢者によく情報が伝わるよう、さらにどんなことができるでしょうか。自分の考えをまとめましょう。

掲示板に張る情報の字を大きくしたり、家にチラシを配って掲示板ができたことを伝える一などが考えられます。いいアイデアが出るといいですね。

支援情報 掲示板で

日田・大鶴地区の3カ所に設置



掲示板を設置した日田市地域おこし協力隊の矢羽田さん（左）とボランティアセンターのメンバーたち＝日田市大鶴地区の大鶴スポーツ広場

きつかけは眼鏡の無料作製サービスだった。自宅が被災して老眼鏡などをなくし、不自由な生活をしている被災者のためにと、大手眼鏡チェーン店が大鶴公民館など五つの避難所に出向き、眼鏡を無料で作るボランティアをした。しかし、訪れたのは数十人だった。

福岡・大分 豪雨

福岡・大分豪雨で甚大な被害を受けた日田市大鶴地区で、被災者支援情報を紹介する掲示板がお目見えした。一足湯サービスや車の無料レンタルなどの情報が被災者に届いていないとして、市地域おこし協力隊の矢羽田健太さん(23)＝大鶴本町＝が中心となり、地区内の3カ所に設置した。

「誰でも見られる」好評

「せつかく支援があっても情報が行き届いていない。高齢者はスマートフォンなどで情報を得るのは苦手。アナログな方法だけでも掲示板を作れば誰でも見られる」。災害対応で多忙な大鶴振興センターと大鶴公民館職員の負担軽減にもなればとの思いもあった。今月上旬、地区内の農産物直売所「やさしい工房沙羅」、ボランティアセンター「大鶴サテライト（大鶴スポーツ広場）、上宮町の県道沿いに木製の掲示板を設置。住民からは「ありがたい」と好評だという。大鶴を離れて避難生活を続ける被災者もいる。「住民が帰って来られるきっかけであったり、集える場になってほしい」と矢羽田さん。

(刀根徹朗)